平成19年７月25日

各　位

東京都港区南青山３－１－３１
株式会社サミーネットワークス
代表取締役社長　大野　政昭
（コード番号　３７４５　東証マザーズ）
お問合先：専務取締役管理本部長 石倉　博
ＴＥＬ:０３－５４１４－３０３０

特別損失の発生及び平成20年３月期中間期・通期の連結及び個別業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社において中国事業に対する投資に関し、下記の通り特別損失を計上することになりましたので、その概要をお知らせするとともに、平成19年４月27日に発表いたしました平成20年３月期（平成19年４月１日～平成20年３月31日）中間期・通期の連結及び個別業績予想を修正いたします。

１．特別損失の発生及びその内容

当社では、当社の連結子会社である中国の地域統括持株会社 Sammy NetWorks Asia Pacific Limited への投資に対する特別損失 1,120 百万円を当第１四半期連結会計期間（平成19年４月１日～平成19年６月30日）において、計上いたします。

当社は、中国の地域統括持株会社 Sammy NetWorks Asia Pacific Limited を設立し中国においてモバイルコンテンツ事業を展開してまいりました。モバイル市場の成長と共に売上高を伸ばして参りましたが、既にご報告のように携帯電話向けコンテンツサービスに関する中国当局の各種規制強化が行われ、平成 18 年６月から売上が従前の半減という事態となっておりました。このような中、中国現地法人において２度にわたる人員削減(約200人から約50人への削減)、広告費の削減(約８割減)、事務所縮小・移転による事務所費削減（約８割減）等、費用を抑制し、一方、事業拡大のため日本国内のコンテンツを中国本土で配信するための提携等を行うなど事業の再構築を進めてまいりました。

しかしながら、当第１四半期連結会計期間において更なる規制強化が追加的に実施され、平成 19 年６月で月間売上高が、更に従前の半減となる事態に陥りました。この状況の中、当社のれんの評価に関し、当第１四半期連結会計期間において 1,120 百万円の減損損失を計上することになりました。当社としましては、上記施策を講じてきましたが、当面このような環境下での業績回復は困難であると判断し、今後、事業売却等の事業撤退も視野に入れた中国事業の見直しを実施いたします。

なお、当期のれん償却額 330 百万円及び翌年以降予定しておりました年間 440 百万円ののれん償却額はほぼ発生しなくなり、費用負担については大きく軽減する見込みであります。

減損金額につきましては、今後の事業の売却活動によって変動する可能性がありますが、Sammy NetWorks Asia Pacific Limited を解散した場合の純資産価値（見込）を保守的に採用しております。

今回の特別損失発生などにより、平成 20 年３月期中間期・通期の連結及び個別業績予想を以下のように修正いたします。

注）個別決算上は、子会社株式評価損 1,869 百万円を特別損失に計上いたします。

２．平成 20 年３月期中間期・通期の連結及び個別業績予想の修正

（１）連結業績予想

１）連結中間業績予想の修正（平成 19 年４月１日～平成 19 年９月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	5,670	869	869	267	6,090　88
今回修正予想（B）	5,489	705	680	△161	△3,699　62
増　減　額（B－A）	△ 181	△164	△ 189	△ 428	△9,790　50
増　減　率 (%)	△ 3.2	△18.9	△ 21.7	－	－

２）連結通期業績予想の修正（平成 19 年４月１日～平成 20 年３月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	12,500	2,000	2,000	712	16,242　36
今回修正予想（B）	11,731	2,036	1,975	506	11,638　98
増　減　額（B－A）	△ 769	36	△ 25	△ 206	△4,603　38
増　減　率 (%)	△ 6.2	1.8	△ 1.3	△ 28.9	△28.3

（２）個別業績予想

１）個別中間業績予想の修正（平成 19 年４月１日～平成 19 年９月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	4,312	1,244	1,244	663	15,124　56
今回修正予想（B）	4,227	1,116	1,112	△531	△12,201　85
増　減　額（B－A）	△ 85	△128	△ 132	△ 1,194	△27,326　40
増　減　率 (%)	△ 2.0	△10.3	△ 10.6	－	－

２）個別通期業績予想の修正（平成 19 年４月１日～平成 20 年３月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円　銭
前回発表予想（A）	9,345	2,634	2,634	1,470	33,534　08
今回修正予想（B）	9,217	2,525	2,521	287	6,601　55
増　減　額（B－A）	△128	△109	△ 113	△ 1,183	△26,932　53
増　減　率 (%)	△ 1.4	△4.1	△ 4.3	△ 80.5	△80.3

３．修正の理由

連結

連結の売上高に関しましては、主として前述の中国事業の業績悪化に伴い、中間期では前回予想比181 百万円の減少、通期においては 769 百万円の減少となりました。

利益面におきましては、中国事業の業績悪化や当社個別での積極的な会員獲得のための広告宣伝費等の経費増などにより、経常利益は中間期で前回予想比 189 百万円の減少、通期では前述の中国事業に関するのれん償却減少の影響により 25 百万円の減少となる見通しであります。

当期純利益につきましては、上記のとおり中国事業に関する特別損失 1,120 百万円が発生しましたが税効果の影響などにより、中間期では前回予想比 428 百万円の減少、通期では 206 百万円の減少となる見通しであります。

個別

個別の売上高に関しましては、ほぼ計画値で推移しているものの、営業利益・経常利益に関しましては主として第１四半期の広告宣伝費の経費増等により中間期では各々128 百万円の減少、132 百万円の減少、通期では各々109 百万円の減少、113 百万円の減少になる見通しであります。

当期純利益につきましては、中国事業に関する特別損失の発生に伴い個別において子会社における株式評価損 1,869 百万円を特別損失として計上したことによって中間期は 1,194 百万円の減少、通期は 1,183 百万円の減少となる見通しであります。

（注）上記に記載した業績予想は、本資料の発表日現在における将来に関する前提・見通し・計画に基づく予想であり、リスクや不確定要素を含んだものです。実際の業績は様々な重要な要素により、大きく異なる可能性があります。

以　上